

第10回 ふれ愛スタディin大空

7月30日から8月3日にかけて、友好町の締結をしている北海道大空町の中学2年生(女満別中学校、東藻琴中学校)と氷川町の中学2年生(氷川中学校・竜北中学校・宇土中学校)による人材交流事業が行われました。

この事業は、雄大な自然が広がる北海道を舞台に中学生による交流を深め、友好関係の発展に寄与し、併せてまちづくりの担い手を育成することを目的としています。

事前に4回の学習会を開催し、北海道や大空町のことを学び、研修に向きました。



▲大空町の皆さんと記念撮影



▲交流会で絆を深めました

熊本空港から羽田空港を経由して女満別空港に到着し、道東地区にある世界自然遺産「知床」をクルージング。大自然に触れ、摩周湖見学やアイヌ民俗資料館などの施設見学も行い学習を深めました。大空町では、渡邊教育長をはじめ多くの皆さまに温かい歓迎を受け、保護者を交えた交流会やホームステイ、網走湖でのカヌー体験など大空町の大自然を思う存分満喫し、中学生同士の交流が深まりました。来年1月には「ふれ愛スタディin氷川」として大空町の中学2年生が氷川町に来町されます。

一言体験談

●一番印象に残っているのはホームステイです。熊本とは食べ物や暮らし方が全く違って、とても勉強になる研修でした。

竹中 皓亮(氷川中学校)

●ホームステイや大空町の中学生との交流が一番楽しかったけれど、アイヌ民族の差別の話はいい勉強になったし、知床や旭山動物園でもいろいろな動物が見れて良かったです。

久保 知子(氷川中学校)

●ホームステイ先で小麦を刈るとても大きな機械に乗ることができてうれしかったです。またホームステイの人の家に泊まりたいと思いました。

富永 裕樹(竜北中学校)

●北海道と熊本は、異なる自然や文化で生きていて、この研修中はとても楽しく過ごることができました。1月に北海道の中学生がやってくるので、温かく迎えたいです。

本山 泰地(氷川中学校)

●文化や歴史、自然、方言などに実際に触れ、とても貴重な経験でした。今後も氷川町と大空町との交流が続いてほしいです。

今田 清花(宇土中学校)

●今回の研修では環境の差を感じました。お店にトドの缶詰や熊の缶詰が売られていたり、直線道路が多く、家も一つ一つの庭が広がりました。今回の経験を今後の人生に生かしていきたいように頑張っていきたいです。

佐藤 ブルース武蔵士(氷川中学校)

●教科書で見た二重窓などを自分の目で確かめることができました。私の想像のはるか上を行く北海道の自然、人、民族を学ぶことができて、とてもうれしく思います。

三浦 小晴(氷川中学校)

●僕はアイヌ民族が自然を大切にしていたことで今の北海道があることを学びました。アイヌというだけで差別されるのはかわいそうだと思います。次は僕たちが氷川町の良さを教えてあげたいです。

木村 太陽(竜北中学校)

●一番心に残っているのがホームステイをしたことです。大空町の子と遊んだりラーメンを食べたりしました。1月に大空町の子が来るので、その時はたくさんおもてなしをしたいです。

飯田 人和(氷川中学校)

●同じ日本とは思えないほど熊本県と北海道には違いがありました。北海道に行かせていただいた方などに感謝の気持ちを忘れないようにしたいなあと思いました。

稲本 真人(氷川中学校)

●大空町では交流レクリエーションをして、とても盛り上がりました。お別れの際には仲良くなったのに別れるのがとてもさみしかったです。この5日間で、自分の言った言葉には責任を持つことを学びました。

泉 朋花(竜北中学校)



▲網走湖カヌー体験

八代海で海遊び

氷川町、八代市、宇城市、上天草市で組織する「八代海北部沿岸都市」地域連携創造会議の事業として、今夏、4市町の小学6年生を対象に、八代海で海遊びをしようというイベントが開催されました。

ただ体験するのではなく、八代海北部沿岸地域の環境問題を知ってもらうために①八代海で清掃活動を行い②活動に参加しての感想文を提出することで、清掃活動の意義を再認識しました。そして③海遊びをすることで、八代海への愛着を持ち、環境への意識向上へとつなげていくことを目的としました。

① 八代海清掃活動

8月8日、竜北漁協船着場周辺で、ごみ拾い活動を行いました。

この日は小学生4人の他、漁協組合員、町職員も参加し、氷川堤防下の漂着ごみを拾いました。

子どもたちは、漂着ごみの多さにびっくり。ごみ袋を両手いっぱい抱えるほど、大量のごみを拾いました。

清掃前には、氷川町のごみの量やリサイクル分別に関する他、八代海で捕れる魚の種類について勉強しました。



▲大量のごみを拾いました



② 感想文提出

「八代海のごみ拾い活動に参加してみたい」という題名で感想文が提出されました。

「漂着ごみを海の生き物が食べたらかわいそうです」「ポイ捨てしている人がいたら注意していきたいです」などの感想がありました。

後日審査会が開かれ、その結果、氷川町からの参加者4人全員が合格となり、海遊び優先券を獲得しました。



▲感想文を審査中

③ 海遊び体験

8月22日、海遊び優先券を獲得した4市町の小学6年生18人は、水俣市の湯の児島で



▲海遊びを体験した宮原小の3人



▲シュノーケリングを体験

イビングとシュノーケリングを体験し、参加者は思い思いに海中散歩を楽しみました。また、閉会式では、このイベントに参加してくれた子どもたち一人一人に賞状が授与されました。

全国アマモサミット

10月2日から4日にかけて、やつしろハーモニホールを会場に「全国アマモサミット」が開催されます。

その中で、今回子どもたちが書いた感想文が展示されますので、ぜひご覧ください。※アマモは海水を浄化してくれる海草です。幼稚魚の育成場として重要な役割を果たすことから「海のゆりかご」と言われています。

【お問い合わせ先】

企画財政課
☎52・5850(直通)

